

学校教育目標		・自ら学び行動する ・思いやりの心をもつ ・体力づくりに励む			総合評価					
運営方針		「小中連携教育(ふるさと学習)を通して学力向上(ICT活用)と規範意識の高揚をめざして」 ～思いやりの心を持ちたくましい生徒の育成～								
令和元年度の成果と課題		本年度の重点目標	具体的目標							
○基本的な生活習慣や規範意識の向上 ○ICT機器活用等を活用しての授業改善 ○図書室環境の改善による、貸出冊数の増加 ●家庭学習の定着 ●さらなる小中連携強化		◎規範意識の高揚	○挨拶の励行			A				
			○生徒観察や連絡・連携及び指導強化							
		◎学力向上	○基礎・基本の定着							
			○家庭学習の習慣づけ							
		◎「夢」「志」を育む ふるさと学習	○将来を展望した、「夢」「志」の涵養							
			○特色ある学校づくり支援事業を通じた、ふるさと学習の深化							
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策				
規範意識の高揚	挨拶の励行	教職員による挨拶指導	A	A	「生徒がよく挨拶ができるか」のアンケートに対して、生徒は91.4%ができる(昨年度 91.3%)、保護者は89.6%ができる(昨年度 83.5%)であり、良い結果となった。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、生徒会による挨拶運動の回数は例年より少なかった。(実施したものはソーシャルディスタンスなどの対策を行った。)	教職員による挨拶指導と生徒会による挨拶運動を充実させる。	子どもたちはよく挨拶をしている。引き続き、挨拶のできる東中生を育ててほしい。			
		生徒会による挨拶運動	A							
	生徒観察や連絡・連携及び指導強化	学級担任・学年主任・生徒指導主事・管理職等による生徒観察	A					登校時の正門で、校長と生徒指導主事、養護教員が生徒観察をし、朝の打合せなどで情報交換を行い、生徒の対応に当たった。観察の結果、特別な支援が必要なときは、個別に対応した。	報連相を大切にし、組織的に生徒指導を行う。	子どもたちは落ちついているように思う。きめ細やかな指導を継続してほしい。
		生徒指導小委員会等での連絡・連絡及び指導	A					生徒指導小委員会(水曜日)や運営委員会(職員会議前)、打ち合わせ(毎朝)で生徒指導に関する情報交換を行い、事象に応じた指導方法を検討し、日々の生徒指導を効果的に行った。		
学力向上	基礎・基本の定着	授業規律確立	A	A	生徒アンケートの「毎日の学習に熱心に取り組んでいるか」に、「そう思う」と回答した生徒が多い結果となった(75.4%(昨年度 63.2%))。 教員はクロームブックなどのICT機器を用い、ロイノートなどの教育ソフトを活用して、生徒が主体的に学習に取り組む授業に取り組んだ。	紙やペン、黒板を使った授業とICTを活用した授業を上手くハイブリッドした授業に取り組む。	パソコンなどのICT機器を活用し、学習に対しての興味付けや基礎学力の定着を図ってほしい。			
		朝学習や質問教室、授業の改善	A							
	家庭学習の習慣づけ	家庭学習計画作成	A					生徒アンケートで「家庭学習の時間が30分以内」が30.3%(昨年度 43.7%)、「2時間以上」が19.4%(昨年度 14.4%)であり、家庭学習時間に大いに改善が見られた。	今後も引き続き、学習の意義や宿題・自主学習などの大切さを伝え、家庭学習の習慣づけを図ってほしい。	家庭学習の大切さを伝えてほしい。
		「家庭学習の手引き」の活用	C					「家庭学習の手引き」を用いた学習方略を考えさせる時間を持たなかった。		
「夢」「志」を育む ふるさと学習	「夢」「志」の涵養	系統的な進路学習	A	B	1年時に個性や夢を見つめ、適性を考える、2年時に職業を学び、生き方を考える、3年時に生き方について自覚を深め、卒業後の進路への見通しを持つ学習を行った。 「働く人に学ぶ学習会」では、4名の講師から、それぞれの事業所の仕事内容を学んだ。新型コロナウイルス感染症の影響で、職場体験学習は中止とした。	「キャリア・パスポート」を活用し、将来の進路に向けた学習を系統的に行う。	子どもたちが、しっかりと将来(進路)について考え、将来就きたい職業に就くことのできる指導を行ってほしい。			
		職場体験学習の充実	B							
	小中連携でのふるさと学習の深化	児童と生徒が協力しての成果物作成	B					児童と生徒が、五條東中学校区のふるさと教材を掘り起こし、ふるさとの魅力として未来に伝え残したいものをカルタにまとめた。(3月完成予定)	五條東中学校区小中一貫教育推進委員会で、小中連携に向けた計画を立て、実行していきたい。	小学校と中学校が連携して子どもたちを育ててほしい。
		小中交流会の充実	C					今年度は、新型コロナウイルスの影響で、小中交流会を中止した。五條東中学校区小中一貫教育推進委員会で、今後の進め方を協議している。		
今年度の成果と次年度への課題		【成果】 生徒アンケートでは、「毎日の学習に熱心に取り組んでいる」△12.2ポイント、「家庭学習の時間が30分以内である」▲13.4ポイント、「家庭学習の時間が2時間以上である」△5ポイントの結果であり、規範意識の高揚や学力向上に関する成果が出ていると思われる。また、クロームブックなどのICT機器を活用した授業改善が進んでいる。 五條東中学校区小中一貫教育推進委員会を通して、今後の五條東中学校区の小中一貫教育の進め方を協議している。		【課題】 ・効果的に家庭学習を進めるための「家庭学習の手引き」とその取り扱い方、クロームブックのドリルパークの扱い方を検討する必要がある。 ・クロームブックなどのICT機器の活用方法についての研修を深める。 ・コロナ禍での職場体験学習や児童生徒の交流の在り方などを検討する必要がある。						